

「忍耐 何と戦うか？ どう戦うか？」

ヤコブ 5 : 7~11

世界で最も難しいスポーツは何だと思いますか。5番目にプロテニス（打った球は200kmほど）、4番目にゴルフ（300ヤード球を真っすぐに飛ばすのはとても難しい）、3番目に4.5mの棒高跳び、2番目に車のレース（300kmの車を操る）、そして1番難しいスポーツは野球（3割当たれば良い世界で150kmの球を打ち返しホームランにするのはとても難しい）と言われています。彼らは急に出来るようになったのでしょうか。スポーツだけでなく色々な面で活躍する人に共通して言えるのは「忍耐」しているということです。私たちは、神様の前に自分の本質を知り忍耐していく時、向かうべき戦いに勝ち抜くことが出来るのです。

■ あなたは今何と戦うべきで、何と戦うべきでないか

あなたが戦っているのは、相手や環境などの「第三者」でしょうか、それとも「自分」でしょうか。もし前者であるなら後者の「自分」に目を向けていくことが必要です。何かを行う時、私たちは「方法」はいくらでも持っています。しかし原則は違えてはいけません。出エジプトの時も神様は、岩を打たせたり、命じさせたり、杖を海に投げ込ませたり、足を踏み入れたり、同じ奇跡を見せるのにも違う方法をさせました。しかし「原則」は変わらず、神の力によってのみ成し得るということを教えたのです。私たちはこの原則を平気で違えます。現実には心を奪われて本当にあるべきものを忘れてしまうからです。そうすると私たちが戦うべきでないものと戦い、戦わなければならないものと戦わなくなるということが起こってしまうのです。ある牧師が夫婦喧嘩をして暫く会話をしなかったそうです。教会では普通にしていたのですが、家では寝る時もベッドの端と端にいました。そんなある日、家の空調が壊れたので電器屋の弟を家に呼びました。すると弟が話し始めました。「実は夫婦喧嘩をしていたけど、兄貴がよく説教でクリスチャンは自ら手を差し伸べて祈らないといけないと言ってるだろ。寝る時、彼女の背中を触るのを嫌だと思った。でも自分の心と戦ってこの手を叱ったんだ。そして彼女に祈らないかと声をかけ一緒祈れたんだ。」それを聞いて兄である牧師は考えました。そして同じように夜、妻に声をかけ一緒に手をとって祈ることが出来たのです。彼は彼女（相手）と戦っていたのです。しかし戦う先が彼女ではなく自分（の中に働いていた悪）であることが分かったのです。

■ この戦いは主の戦い

私たちは自分と戦う時、自分が悪いのだと思っていることがあります。しかし聖書には、『この戦いは主の戦い（II歴代誌 20 : 15、Iサムエル 17 : 47）』、『血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである（エペソ 6 : 12）』と書かれています。私たちが戦うべきは、相手でも自分自身でもなく、自分の心に潜む悪です。暗闇の主権者は巧妙です。自分は間違っていないと他者に目を向けるようにします。しかし問題が起こるのは原因があるからであり、神様はこの原因を変えたいのです。また、暗闇の主権者たちにとって私たちが任されたもの（お金や時間）を管理するようになったら困ります。祝福され神の栄光が現れてしまうからです。聖書には『「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。種入れをかかえ、泣きながら出て行く者は、束をかかえ、喜び叫びながら帰って来る。」（詩篇 126 : 5-6）』と約束されています。神様はあなたを祝福したいのです。しかし今祝福してあなたがダメになるならその試練を乗り越えるまで忍耐の道に導かれます。自信を失い痛み、生きることさえ相応しくないのではないかとこの所まで落とされることもあります。しかしそれが起きた時には、忍耐を学んでいる時であり、神様が祝福しようと導かれているのです。だからこそ今問題や試練があるなら乗り越えないといけません。

■ ぶれない信念で耐え忍ぶ

マザー・テレサことアグネス・ゴンジャ・ボヤジュは有名です。しかし、最初から成功したわけではありません。26歳で修道女を決意し、カトリックの教師になり校長になりました。ある日、汽車の中で貧しい人のために働くと神様に言われます。インドのカルカッタに一人で行き、お金もなくカーストの厳しい制度の中働きましたが、最初はうまくいきませんでした。何度か心の中で聞こえる「無駄だ、諦めろ」という声に諦めそうになり

ました。しかし諦めずに戦う中で、7人の友が与えられ、後に「神の愛の宣教教会」を立ち上げ、子どもや死にゆく人のためにホスピスや児童養護施設を開設し、最後まで神様のために生き抜いたのです。このように乗り越えることができるのは、ぶれない信念があるからです。信念は神様があなたにくれるプレゼントであり、どんなことがあっても揺るがないものです。このように、私たちは自分の中にある悪と戦わないといけません。あなたの良心に絶えず対抗して耳元で囁く悪の声があるからです。この声は悔い改めることをさせません。あなたを責めますが決してあなたが戻るようには言いません。人のせいにするか、あなた自身が悪なのだと言い放ちます。そこでどう戦うかが大切です。

■ ① 農夫から学ぶ

農業は人間の原点です。今人間に起きているのは、食べることを待たない、労苦しないということです。本来、農業は種を蒔いて刈り取るだけでは終わりません。一つの糧を得るのにどれだけの苦労があるでしょうか。土づくりに5年、ずっと同じ畑は使えないので絶えず回していかなければなりません。雨が降らない、虫が来た、収穫が出来ない、様々な問題がある中、食を作るのに多くの農夫たちが戦っているのです。

■ ② 預言者から学ぶ

預言者たちは自分の信念に与えられた神からのメッセージを貫くために国家権力に対して命をかけて生きていきました。すべての人が敵になり、一人になっても預言者たちは忍耐の限りを尽くして、その信念と自分の役割を貫いていったのです。

■ ③ ヨブから学ぶ

人生に理不尽が起きた時、ヨブが敵としそうになったのは自分を責めた友でした。一時は心が折れ、服を切り裂き、壊れた土器の欠片で体中に出たできものを掻きむしり、灰を被って廃人のようになりました。そんなヨブが最後に行きついた言葉が、『私は裸で母の胎から出来た。また、裸で私はかきこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。（ヨブ 1 : 21）』です。ヨブは、自分を呪った友を赦し神に感謝しました。すると彼は失ったものの2倍を受けたのです。

■ 忍耐し戦うべきは、自分の心に潜む悪

理不尽が起きた時、彼らは戦いました。相手と戦ったり逃げたりするのではなく、大切なのは、忍耐をして自分の心の悪と戦うことです。特別な人がヒーローになるのではありません。ヒーローとは問題が起きた時に他の人と違う行動をとった人であり、みんなが逃げ惑う時に戦おうと決断する人です。これがクリスチャンの姿です。自分の中に出てくる悪の心に耐え忍ぶ時にイエスキリストがあなたを救いに来るのです。イエスキリストは十字架であなたのためにいのちを懸けて死んだのです。これは忍耐です。神でありながら人として生まれてきた彼の心の中にはあなたと同じ痛みがありました。しかし自分の弱さに忍耐して乗り越えたのです。そして長子になりました。長子になってくれた人を知っている私たちは学ばなければなりません。あなたが色々な道で憎まれた時、忍耐によって自分のいのちを勝ち取れるように祈りましょう。

■ まとめ

クリスチャンは必ずこの道を通ります。忍耐をする必要があるからです。あなたの戦う相手は環境でもなく、あなたの前にいる人でもありません。敵だと思う人がいてもその人を変えるのは神様です。あなたが戦うのは、神様の管であるあなたを詰まらせる様々な汚れです。逃げようとするあなた、嘘をつき誤魔化そうとするあなた、人のせいにしようとするあなた…しかし、この戦いは主の戦いです。手を隣の人に差し伸べようとする時に出てくるこの自己義に勝利しなければなりません。あなたの手が触れた時に相手の心の氷は融けるからです。忍耐をもって諦めず、今戦う相手に正しく向き合い決断していきましょう。

（要約者：西寄芳栄）

（2021年2月14日）